

令和2年第3回新十津川町議会定例会一般質問通告表

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
1 (4)	鈴木 康裕	<p>ウィズコロナ・アフターコロナ状況下の新十津川の諸行事再開について</p> <p>新型コロナウイルスが中国の武漢で発生して以来、世界中で活動が自粛され、本町でも種々の行事が中止されてきた。</p> <p>道内では七飯町の町議会議員が2月に感染し、定例議会の開始が一週間延期となったり、道議会も代表質問が6日間から2日間に短縮された。</p> <p>本町でも3月の第1回定例会では、一般質問が行われなかった。</p> <p>また、主な行事では、札沼線廃線イベント、陶芸まつり、児童・生徒母村交流事業、ピンネシリ登山マラソン、130年記念人文字アート、ふるさとまつり、長寿を祝う会などが中止となり、開町記念式典は規模を縮小して行われた。</p> <p>今後も9月の子育て講演会、10月の味覚まつり、町民音楽祭が中止の決定をしている。</p> <p>一方、内閣府が8月17日に発表した今年の4～6月期の実質国内総生産（GDP）は年率換算で27.8%減となり、戦後最悪のマイナス成長となり景気が再び悪化するとの予想がある。</p> <p>新型コロナウイルスが弱毒化してきているとの報告もあり、現在の状況下での活動再開、経済支援などが急務の状態と考える。</p> <p>そこで、本町では諸行事をどのような状況になれば再開するのか、町長に伺う。</p>	町 長	
2 (10)	安中 経人	<p>高度無線環境整備推進事業の運用について</p> <p>国の第二次補正により新型コロナウイルス感染症対策の一環として高速情報通信整備について502億円の予算措置がなされ、本町においても整備の意思が有ることの説明があり、作業を進めていると聞くが、メリット・新型コロナ関連はもとより、この整備においてどのような施策が展開されていくか伺いたい。次の3点について伺いたい。</p>	町 長	

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
		<p>1 概算事業費約5億円の補助裏2億1200万円についてNTT側と按分とあるが、民間への負担行為について法的根拠に守られている根拠は。</p> <p>2 具体的事業工期と事業費について及びNTT側との協議経過について</p> <p>3 今回の整備において通信環境が整備されることによる大きなメリット、また、新たな施策を考えているのか。</p>		
3 (7)	西内 陽美	<p>新型コロナと共存していくための放課後児童クラブの受け入れ態勢について</p> <p>国内で初めて新型コロナウイルスの感染が確認された本年1月16日以来、未だ感染症の終息は見えない。この間、世の中の経済活動や社会活動は大きな変容を見せ、本町においてもあらゆる面で影響を受けた。</p> <p>経済活動に対しては、事業者への直接的支援に加え、町民への給付金等の交付で町内の経済活動の下支えを促した。一方、行動制限は、感染予防の観点から緩和できない状況が続いた。</p> <p>緊急事態宣言解除後、徐々に日常生活が戻りつつあるなかにあっても、感染症発生以前と同様の生活ではない「新たな生活様式」が求められている。新型コロナと共存していくため、町が行う事業にも新たな取組が必要だと考える。</p> <p>そこで、再度コロナ禍により臨時休校する状況になった際には、放課後児童クラブでの児童受け入れ態勢を強化し、保護者の職種にかかわらず、子育て世代全般の就労を支えることが必要だと考えるが、町長の考えを伺う。</p>	町 長	
4 (3)	進藤久美子	<p>臨時休校に伴う準要保護世帯の学校給食について</p> <p>4月7日の緊急事態宣言を受け、学校が臨時休校となりました。休校中は給食がなかったため、「働いている娘に代わって孫のお昼ご飯の用意をしてきたが、毎日のことなので大変だった。」という祖父母、「家で作るほうが給食費よりもお金がかかる。」という保護者の声を聞</p>	教育長	

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
		<p>きました。その声を聞いて、改めて給食のありがたさを痛感させられました。</p> <p>新型コロナウイルスの影響を受け、厚生労働省から「要保護者に対して返還された学校給食費については福祉事務所への返還を求めないこと」という通知が出されたと聞いています。</p> <p>本町の場合、準要保護世帯の給食費については扶助費で賄われていますが、給食費の減額分を準要保護世帯に支給するべきと考えますが、教育長のお考えを伺います。</p>		
5 (2)	村井 利行	<p>小学校の「教科担任制」の導入について</p> <p>新学習指導要領による授業が、小学校では本年2020年から、中学校では来年度から始まります。</p> <p>コンピューターやインターネットの技術革新に伴い、社会・経済状況が目まぐるしく変わる中、学校教育も大きく変わろうとしています。</p> <p>そのような中で「学校教育の充実」「確かな学力の育成」の観点から、将来的には小学校における担任制を「学級担任制」から「教科担任制」へ移行する取組も考えられます。</p> <p>小学校におけるこれまでの町独自の専科教員に対する成果と、今後の計画的な教科担任制への移行について、教育長の見解をお尋ねします。</p>	教育長	
6 (1)	井向 一徳	<p>令和2年産米に対する米対策について</p> <p>令和元年産米は、消費増税の影響もあり好調な売れ行きとは言えず、また令和2年に入ると新型コロナウイルスの影響により、学校給食の休止、飲食店の営業自粛等による外食需要の減少もあり、コメの消費量は前年より約22万トン減少している。</p> <p>6月末民間在庫は、適正在庫180万トンのところ201万トンとなり、政府は飼料用米への変更を促してはいるが効果が見えない。</p> <p>令和2年産米の出来秋を迎えるにあたり、収穫量が前年並みとなれば、米価が低迷することが危惧される。</p>	町 長	

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
		基幹作物である水稲の作付農家をどう守っていくのか町長の考えを伺う。		
7 (5)	小玉 博崇	<p>ICT（情報通信技術）を活用した今後のまちづくりについて</p> <p>国では、防災や地域活性化のツールとして地方公共団体におけるインターネット環境の整備が進められています。加えて、新型コロナウイルスとの共存に向けた新しい生活スタイルにおいても、インターネット環境は様々な場面で必要不可欠となってきました。</p> <p>本町では、学校の学習環境や災害に備えた環境整備として段階的にインターネット環境の整備を進めてきており、今後も町内全域で情報通信が可能となるよう環境の整備が進められていきます。</p> <p>人口減少、少子高齢化、防災、地域コミュニティの再生など、町が抱える様々な課題に対し、ICT（情報通信技術）を活用した独自の取り組みが全国各地で行われているなか、本町のまちづくりにおいて、ICTをどのように活用していくのか、町長の考えを伺います。</p>	町 長	